

長崎の若者が ジュネーブ デビュー

今年の四月～五月、国連NPT(核不拡散条約)再検討会議のための準備会議が、スイスのジュネーブで開催。そこに長崎から八人の若者が参加しました。率いたのは昨年、長崎大学に誕生した核兵器廃絶研究センター(RECNA・チヨール39号で紹介)の中村桂子准教授です。

「彼らはナガサキ・ユース代表団といい、公募で選ばれたメンバーです。企画したのは核兵器廃絶長崎連絡協議会で、RECNAも深く関わっています。NPT準備会議には、世界各国からNGOの人々が何百人規模で集まってきました。市民団体だけでなく大学などのアカデミア、自治体の長など、さまざまな立場の人たちが、各国政府の要人と核軍縮について交渉し合う。目の前でダイナミックなことが動いていく様子を、彼らも体感できたようです。昨年長崎に来たとき、小中高生までの平和活動がよく知られているの compared to 大学生の活動があまり見えななことに驚き、若い世代の底上げをしたかったので、やっと動き出したという実感です」。

RECNAに来る前は、平和や軍縮問題に関する情報発信を行うNPO法人ピースデポで年間活動してきた中村先生。一年のうち一カ月は国際会議だったとか。

子どもの存在が 仕事の意味を 変えました

「私の役割は会議の動きを分析し、核兵器廃絶運動を進める人に役に立ちそうな情報を伝えること。核兵器専門のニュースレターの解説記事などを手がけてきました。今の時代、ネットで情報は手に入りますが、量が多すぎたり言葉の壁があつて消化が困難です。私はそのなかで、例えば政府発表の発言ポイントを洗い出し「ココが重要、ココを攻めるとイける!」という情報を掘りおこしたり、人に会ってネットでは入



ジュネーブの国連会議場で、ユース代表団のメンバーと中村さん(右)。「立場の違う人々が生きた議論をかわす現場を見て刺激になったようです。『変わらないかもしれないからやらない、じゃなくて、やらなきゃ変わらないことがわかった』という感想も聞きました。悩んで葛藤して、次につなげてほしい」。

手できない情報を引き出すのです。私は「宝探し」と呼んでいますが、RECNAでも引き続きそれが仕事の一つです。国際会議では、立場の違う現実主義者をどう説得していくかがカギとなります。相手に届く言葉や、交渉のための戦略が大切なのです」。

言ってみれば核兵器専門のジャーナリストのような仕事なんですわね。

「体力には自信があります。時差があるのであちらでも昼も夜も働いて、睡眠は三、四時間でも平気!なんて、高度成長期のお父さんみたい(笑)。ああ、でも今回は帰国して風邪でダウンしましたね。さすがの私も体力の限界で

しょうか。それと今回はユースのメンバーがいっしょだったので勝手が違いました。発見もありましたよ。一般的な見学ツアーと違い、飛行機も宿も自分で手配させるなど、主体的なプロセスを大切にしました。だから会議を聴く人もいれ外でNGOのイベントに参加する人もいて、すべて同時進行。最初は心配だったけれど、ふたを開けてみると、彼らは独自にネットワークを広げてタブレット端末で情報収集し

議長と会えそうだった、じゃあ今から行ってみよう。なんて頼もしかった。自分の思い込みを反省しました。あとはこの経験をどう活かしていくかですね」。

命の実感を通して 次のアクションへ

中村先生、国際会議にはしばしば娘さんを連れていくそうです。

「今二歳半、夫は専業主夫なので同行

してくれず。家族と離れたくないという、ただそれだけなんです。以前は子どもを持つと仕事がいかに大変なかも...と躊躇していたこともありましたが、でも今は、命の実感というのかな。それまでは「次の世代」と口にしても理念でしかなかったけれど、目の前に子どもという存在があることで「この子が苦しむような世の中にはしたくない」、さらには、世界中の子もが辛い目、痛い目に合うことを想像すると耐えられない。子育てというパーソナルな体験を通して、大人として命を預かっている責任や、自分の仕事の意味も変わってきました。だから長崎でも、被爆者や高校生だけじゃない、子育て世代にも関心を持つてもらいたい。普通に生活するお父さん、お母さんが被爆者の思いをしつかりお腹にためて、海外の人とも物怖じせず自分の言葉で議論できる、そういう人を増やすのが、私のライフワークです」。

国際会議を駆け回りながら集めた情報を、等身大の平和運動にフィードバックする。中村先生の存在は、被爆地長崎ができること、その可能性目を開かせてくれます。

※/RECNA 長崎大学核兵器廃絶研究センター
Nagasaki University
Research Center for Nuclear Weapons Abolition

中村桂子

Nakamura Keiko

なかむらけいこ。神奈川県出身。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)准教授。昨年4月のRECNA開設にもない、長崎大学に赴任。3月までは特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた。

働くウーマン奮戦記 大学はわたしの 仕事場

5

長崎大学で働く女性教職員の活躍ぶりを毎回お一人ずつ紹介します。ステキな先輩たちの後ろ姿を見て女子学生も何かを感じて欲しい。そんな願いをこめたコーナーです。